

第1回呉市立地適正化計画検討委員会 摘録

- 1 日時 平成29年10月30日(月) 14時00分～15時40分
- 2 場所 呉市役所本庁舎 7階754会議室
- 3 概要・骨子

呉市立地適正化計画(素案)について (○:委員, ●:事務局) 呉市の現況と課題について

- 医療福祉の内容が不十分である。医療施設数は十分であるが、医療水準は、十分とは言えない。現状の医療モデルを維持する方針を盛り込んでほしい。
- 大学の看護学科の生徒は呉市に多くは就職しないが、医師会や共済病院等の看護学校はほとんどが呉市に就職しているので、そのことについても記載した方が良いのではないか。
- 呉市では、地域子育て拠点事業を実施しているが、市域全域でみるとまだまだ不十分(バギーを押していける範囲に子育て支援施設がない)。また、男性の育児参加や地域で支える体制、子育て相談の場などが必要。
- 最近まちづくりや産業構造が出生率と関係があることが分かってきている。合計特殊出生率、有配偶率、性比についても検証する必要があると思う。
- 高齢者の自動車による交通事故が多いことから、今後高齢者が公共交通を使って移動できる環境を整備していくことが重要。
- 公共交通(バス)と生活交通(乗合タクシー等)の役割分担が重要であると同時に、その乗継環境整備が重要。乗継の運賃の問題は、乗継割引制度(県で既にシステム構築)の導入も検討すべき。
- 今後居住誘導区域を設定するに当たり、斜面地に人が多く住んでいる呉市では、災害危険性のある区域の取り扱いが難しい。国の方針では、土砂災害警戒区域や特別警戒区域等の危険性のあるところには誘導しない方針となっている。

- 人口の現状には、人口の推計とセットで世帯数の動向の分析も必要。また、RESASのデータを用いて、観光の交流人口がどう動いているかを把握する必要がある。観光交流人口は、住民の都市機能（小売業、飲食・宿泊サービス業等）を支えるものになりうるため、観光交流人口の動向と合わせて、小売業、飲食・宿泊サービス業の状況を把握してもよい。
- 人口密度の低下が見られるとあるが、低下が見られるという解釈よりも、人口密度が低い地域が広く残るほうが問題だと思う。つまり、コンパクト化をどう進めなくてはいけないのかという意味では、もう少し別の解釈があると思う。
- 15歳から19歳の転入が多いのをどう捉えるのかデータの確認が必要。呉の製造業の技能工として転入する中卒・高卒の方が多くはないか。そうであれば、産業構造や技術構造の変化の影響を受けるため課題としても捉えてもいいと思う。
- 年齢3区分の人口分布等、人口の推移についてももう少し詳細に見る必要がある。また、住宅・土地統計調査と市の空き家調査を重ね合わせて、狭あい道路や斜面地との関連も見べき。併せて、空き家の予備軍となる、高齢者単身世帯についても調査すべき。
- 合併旧町の農業や水産業等の1次産業についても都心部に誘導されるのか心配。農業や水産業の状況についても記載してほしい。
- 公共交通については、瀬戸内海にある他都市との航路等、今後低コストで運航できる可能性もあるので、JR、バスだけでなく、船についても視点として入れるべきではないか。
- 昭和地域と呉市内へ出る道路のアクセス性が悪いため、人口動態が活発化するために、道路整備が重要。また、人口規模に対して、警察署や医療などの機能が不足している。